

地域課題の解決に向けた取組

地域と連携した保護活動・植樹活動の取組

宗谷森林管理署

【はじめに】

宗谷森林管理署は、北海道の最北部に位置し、宗谷総合振興局管内の1市8町1村を管轄区域としており、東部はオホーツク海、西部は北の浮島と呼ばれる利尻島・礼文島がある日本海に面しています。管轄区域の面積は約46万ha（北海道の約6%）で、その約7割が森林、さらにその5割強に当たる約17万haが国有林となっています。

管内は高緯度地方特有の自然環境を形成しており、日本海側の稚内市・利尻町・利尻富士町・礼文町・豊富町が「利尻礼文サロベツ国立公園」に、オホーツク海側の猿払村・浜頓別町・枝幸町が「北オホーツク道立自然公園」にそれぞれその一部が指定されています。また、地域の固有種や希少野生動植物種にも指定される動植物など、様々な生物が生息生育しています。



利尻礼文サロベツ国立公園。サロベツ湿原から利尻島を望む。

【希少種の保護増殖活動】

宗谷森林管理署では、絶滅の危機に瀕しているレブンアツモリソウの保護増殖活動に、礼文町・環境省と連携して取り組んでいます。レブンアツモリソウは、山火事や盗掘などにより、生育数が一時、2,000株にまで減少しました。このため、平成6年に保護林を設定し、平成8年からは、生育を促すため、保護林の一部で草刈を実施し、生育

状況のモニタリングを実施しています。さらに、盗掘を防ぐための巡視などを行うことで、現在では5,400株を超えるまでに回復しています。

加えて、利尻・礼文両島で、グリーンサポートスタッフなどが巡視を行い、入林者へのマナー向上などの啓発や保護活動のPRを行うほか、関係機関と連携した登山道整備なども実施しています。

【地域と共に植樹活動】

管内北部の森林は、過去の度重なる火災などのため、笹地となっている箇所があり、このような場所で、自治体・漁協などとの協力による植樹活動を行っています。漁協との連携では「お魚を殖やす植樹」として、国有林と地域が共に山を豊かにし海も豊かにする活動を実施しています。



昭和63年に開始された「お魚を殖やす植樹」は、5つの漁協（支所）と連携し、これまでに約20haの植樹を行っています。

【今後に向けて】

道北特有の厳しい環境下にある宗谷地方ですが、山も海もより豊かになるよう、地域と連携した希少種の保護増殖活動や植樹活動など、自然を守り育む取り組みを今後も継続して行ってまいります。



レブンアツモリソウ

特定国内希少野生動植物種
（環境省レッドデータブック
絶滅危惧IB）